

高専入学生からみた中学校の授業とやる気

梅 野 善 雄
(一関工業高等専門学校)

Lessons at Junior High Schools through College Students' Eyes and Their Learning Motivation

Yoshio Umeno
(Ichinoseki National College of Technology)

Lessons at junior high schools were examined through college freshmen's eyes in order to study what sort of lesson the junior high school students liked and from what sort of lesson they were motivated to learn. The results of this examination were as follows : 1) They were motivated to learn from lessons that were intelligible and were taught by good teachers ; 2) They also wanted to learn from teachers who could understand learners' feelings and whom they could respect ; and 3) Their learning motivation was largely influenced by their likes and dislikes of teachers. On the basis of these results, what lesson should be planned was discussed.

1. はじめに

高専における授業を考える上では、授業の内容やレベルに留意することは当然であるが、いかにすれば学生の興味・関心を引き、やる気を起こさせることができるか、具体的な授業の方法についても工夫が必要であろう。

学生はどのような授業を望んでいるのか、また具体的にどのような授業をすればやる気が起きるのか。教官個々の担当科目であれば、授業に対する感想を書かせるなどの方法で学生の生の声を知ることができるが、同じ職場にあって他教官の授業まで調査するわけにはいかない。しかし広く授業一般についてこのような学生側の意識を把握しておくことは、教室で授業をする場合には必要なことと思われる。

そこで、高専入学後の1年生を対象に、中学校では具体的にどのような授業が行われているかを調査した。そしてその資料をもとに、学生は中学校ではどのような授業を望んでいたのか、またどのような授業のときやる気が起きたのかなどをいろいろな角度から分析した。そして、その結果をもとに入学後の高専における授業についても考察

する。

2. 調査の方法

この調査の対象としたのは、平成4年度本校入学生で休学や長欠者を除く164名である。平成4年6月上旬に、1年全クラスを担当していた著者の授業時間を利用して、一斉記入方式(記名式)で調査した。

具体的な調査項目の選定は、平成3年度1年生の著者の担当する科目の最後の授業で、学生に小学校以来の授業を振り返って最も良いと思った授業や教師の具体的な特徴を、また最も悪いと思った授業や教師について同様の記述を求めた。具体的な科目名や教師名、そしてどの学校のどの学年かは書く必要がないことを特に注意した。

こうして得られた項目から、類似の調査^{1), 2)}やこれまでの授業の経験をもとに取捨選択あるいは追加して、最終的にはその科目に対する意識に関するもの(10項目)、その科目を担当した教師に関するもの(25項目)、そしてその教師の授業の仕方に関するもの(40項目)など、全部で83の項目を選定した。

調査は、中学校の主要5科目（国語、社会、数学、理科そして英語）についてそれぞれ同じ内容の用紙で行った。1科目当たりの項目数が多く、また科目数も多いため、調査は2回に分けて行った。調査当日欠席した者は後日提出させるなどして、各科目とも162～164名の回答が得られた。回答総数は、5科目全体では816名である。

3. 科目に対する意識

3. 1 主要5科目に対する意識

まず、中学校の主要5科目に対してそれぞれどのような意識を持っているかをみる。表1は、各項目につき、それぞれ「全くそうではない」「あまりそうではない」「どちらともいえない」「まあそうである」「全くそうである」の5段階で回答を求め、そのうち「まあそうである」「全くそうである」と回答した者の割合を示したものである。

これをみると、科目によりかなり異なる傾向がみられる。「勉強すると将来役に立つ」と思うのは、英語（95.1%）、数学（81.7%）の順である。英語は半数以上（53.1%）が「学習する目的はよく分かっている」と回答しているが、「勉強についてゆくのが大変だ」（43.9%）と答えている。「科目の内容に興味を持てる」のは理科が73.2%と際立って多い。この科目は半数近く（45.7%）が「勉強するのが楽しい」と答えている。反対に国語は「勉強の仕方がよく分からない」「授業時間が長く感じられる」「勉強していてもすぐあきる」と回答する者が多く、どちらかというこの

科目を苦手とする者が多いようである。

3. 2 やる気との関連性

主要科目に対する「やる気」についても調査した。表2は、主要5科目に対する中学3年のときのやる気の程度を1～10の数値で答えさせ、その平均値を示したものである。理科のやる気が最も高く（7.45）、次が数学（7.21）となっている。国語のやる気が最も低い（5.60）。

表2 主要5科目の3年のときのやる気

	国語	社会	数学	理科	英語	全体
平均	5.60	6.73	7.21	7.45	6.54	6.71
S D	2.12	1.99	2.07	2.03	1.95	2.13

やる気は科目ごとに1～10の範囲で答えさせ、その平均値を示した。S Dは標準偏差である。

表3は、各科目に対する意識の持ち方によりやる気がどのように異なるかをみたものである。各項目への「全くそうではない」から「全くそうである」の回答ごとに、5科目全体でやる気の前平均値を求めた。<は平均値の差に関するt検定を行い、有意水準5%で有意の差が認められたことを示す。

これをみると、いずれの項目もその項目に勉強するという方向で肯定的に回答している者ほど、その科目に対するやる気も高いことが分かる。特に「科目の内容に興味を持てる」ほど、あるいは「勉強するのが楽しい」と感じるほど、その科目に対するやる気が高い。逆に「勉強していても時

表1 主要5科目に対する意識

項目の内容	国語	社会	数学	理科	英語	全体
1. 勉強すると将来役にたつ	46.3	42.6	81.7	56.7	95.1	64.4
2. 科目の内容に興味を持てる	23.8	54.9	48.8	73.2	40.1	48.2
3. 勉強していてもすぐあきる	47.6	22.8	22.6	11.5	25.3	26.0
4. 学習する目的は分かっている	15.2	29.7	38.4	26.8	53.1	32.6
5. 勉強するのが楽しい	12.2	34.6	33.0	45.7	17.9	28.7
6. 勉強についてゆくのが大変だ	5.5	11.1	40.2	11.0	43.9	22.3
7. 勉強しても時間の無駄だと思う	14.0	8.1	2.4	0.6	2.5	5.5
8. 授業時間が長く感じられる	52.4	34.6	34.2	23.1	30.9	35.1
9. 勉強の仕方がよく分からない	58.5	23.4	17.1	9.1	27.7	27.2

「まあそうである」「全くそうである」と回答した者の割合（%）

表3 意識の持ち方によるやる気の平均値

項目の内容	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1. 勉強すると将来役にたつ	4.58	5.79	6.42	< 6.92	7.15
2. 科目の内容に興味を持てる	3.80	< 5.14	< 6.41	< 7.36	< 8.55
3. 勉強していてもすぐあきる	7.93	7.67	> 6.78	> 5.69	> 3.75
4. 学習する目的は分かっている	5.05	6.02	< 6.82	7.07	7.64
5. 勉強するのが楽しい	4.00	< 5.58	< 6.88	< 7.96	< 8.74
6. 勉強についてゆくのが大変だ	7.12	6.97	> 6.45	6.83	> 5.70
7. 勉強しても時間の無駄だと思う	7.48	7.02	> 6.24	> 5.09	> 2.55
8. 授業時間が長く感じられる	7.87	7.46	> 6.98	> 5.95	> 4.98
9. 勉強の仕方がよく分からない	7.89	7.19	> 6.60	6.10	5.38

(1):全くそうではない, (2):あまりそうではない, (3):どちらともいえない, (4):まあそうである, (5):全くそうである

間の無駄だと思う」ほど、あるいは「勉強していてもすぐあきる」ほど、その科目に対するやる気は低くなっている。

以上のことは、個々の科目別にみても同様であった。

4. 教師に対する意識

4. 1 教師に対する好き嫌い

ここでは、教師に対する好き嫌いの意識と、その教師の担当する科目に対するやる気などとの関連性について調べてみたい。

その科目の担当教師をどちらかといえば「好き」と答えた者は5科目全体では46.3% (378名)、「どちらともいえない」は42.4% (346名)、そして「嫌い」と答えた者は11.3% (92名)であった。表4は、この項目への回答別にその科目を好きかどうかをみたものである。

これをみると、その教師を「好き」と答えた者の57.7%はその教師の担当する科目も「好き」と回答し、「嫌い」と答えた者の40.2%はその科目も「嫌い」と回答している。そして、その教師を「好き」と答えた者の48.7%はその科目を「好きになった」としているのに対して、その教師を「嫌い」と答えた者の38.0%はその科目を「嫌いになった」としている。

また、その教師の授業はどちらかというところ「やる気が起きる」者は、教師を「好き」と答えた者では57.7%であるのに対し、逆に「嫌い」と答えた者では64.1%が「やる気が起きない」と回答している。

このようにみえてくると、教師に対する好き嫌いの意識は、その教師の担当する科目の好き嫌いのみならず、その教師の行う授業のやる気にまで影響していることが分かる。

表4 教師に対する好き嫌い、科目に対する好き嫌い

		その科目は どちらかというところ			その科目が 好きになった			その授業は やる気がおきる			
		% (数)	好き	中間	嫌い	はい	中間	いいえ	はい	中間	いいえ
	全体	100.0(816)	42.6	40.9	16.4	25.9	68.0	6.1	32.5	53.8	13.7
その 先生 は	好き	100.0(378)	57.7	32.3	10.1	48.7	50.5	0.8	57.7	37.8	4.5
	中間	100.0(346)	28.9	54.0	17.1	7.5	89.0	3.5	12.4	77.2	10.4
	嫌い	100.0(92)	32.6	27.2	40.2	1.1	60.9	38.0	4.3	31.5	64.1

「どちらともいえない」は「中間」とした

表5 教師の特徴に関する項目

1. 生徒の気持ちをよく理解してくれる	14. ちょっとしたことでもすぐ怒る
2. 少し頼りない	15. 生徒から慕われている
3. 服装や髪型がきちんとしている	16. 自分の考えを生徒に押しつける
4. 自分の誤りは素直に認める	17. 生徒の名前をよく覚えている
5. 生徒をえこひいきする	18. 生徒を見下したような態度をとる
6. 人間として尊敬できる	19. 生徒が悩みを相談に行きやすい
7. ユーモアがある	20. 機嫌が悪いと生徒にあたる
8. 年齢的に若い	21. 授業の進め方を工夫している
9. 生活指導が厳しい	22. 良いことをしたときは生徒を誉める
10. 男の先生である	23. 担当科目に対する知識が豊富である
11. 教え方が上手である	24. 生徒一人一人に気をつけている
12. 自分の生き方についても話をする	25. 怒ってもあまり恐くない
13. 自分の自慢話をよくする	

4. 2 好きな教師像

では、学生はどのような教師を望んでいるのだろうか。「その科目を中学3年のとき教えた先生はどのような先生でしたか」として、学生からみて教師の特徴を示すと思われる25項目(表5)をあげ、その各項目に対してそれぞれ「全くそうではない」から「全くそうである」までの5段階で回答を求めた。そして、その各項目と教師に対する好き嫌いとの関連性の程度を、項目間の分割表をもとにAIC(赤池の情報量基準)³⁾により計算した。

AICは、

$$AIC = (-2) \ln(\text{最大対数尤度}) + 2(\text{自由なパラメータ数})$$

により定義される値である。2次元分割表の場合には、この値の正負により独立・非独立の判定ができ、その値の大小により分割表に含まれる情報量の多寡を知ることができる。

表6は、5科目をまとめて計算したときAICの小さい順(つまり含まれる情報量の多い順)に上位10項目を示したものである。このうち上位3項目は、各科目別にみてもいずれも上位5位以内にあった(表は略)。「生徒から慕われている」「生徒の気持ちを理解する」「人間として尊敬できる」など、生徒理解や教師の人間性に関わる項目が上位にある。

表7は、これらの項目と教師の好き嫌いとのクロス表である。3カテゴリーにまとめたもので示した。これをみると、その科目の教師が「好き」な場合、そのような教師の74.3%は「学生から慕

われている」。また、83.6%は「生徒の気持ちを理解する」とみられており、66.1%は学生からみて「人間として尊敬できる」教師である。その教師が「嫌い」な場合には、いずれも以上と逆の傾向がみられる。特に72.8%は、その教師は「人間として尊敬できない」と答えている。

表6 教師の好き嫌いに関連する項目

No	項目の内容	AIC
15.	生徒から慕われている	-397.04
1.	生徒の気持ちを理解する	-358.67
6.	人間として尊敬できる	-346.09
7.	ユーモアがある	-247.03
19.	悩みを相談に行きやすい	-241.71
11.	教え方が上手である	-230.23
18.	生徒を見下した態度をとる	-161.87
24.	一人一人に気をつけている	-161.60
4.	自分の誤りは素直に認める	-158.81
5.	生徒をえこひいきする	-156.30

5. やる気を起こす授業

5. 1 やる気を起こす授業

学生のやる気を起こすには、具体的にどのような授業をすればよいのだろうか。中学3年の時に主要5科目を担当した先生の授業の仕方を、具体的な項目を40項目(表8)あげて、各項目についてそれぞれ「全くそうではない」から「全くそうである」までの5段階で回答を求めた。そして、その回答と「その先生の授業はどちらかという

表7 教師に対する好き嫌いとのクロス表

		生徒から慕われている			生徒の気持ちを理解する			人間として尊敬できる			
		% (数)	はい	中間	いいえ	はい	中間	いいえ	はい	中間	いいえ
	全体	100.0(816)	45.3	38.2	16.4	57.8	26.7	15.4	40.9	40.1	19.0
その先生は	好き	100.0(378)	74.3	20.9	4.8	83.6	12.7	3.7	66.1	28.6	5.3
	中間	100.0(346)	23.4	61.3	15.3	42.5	43.4	14.2	23.1	57.2	19.7
	嫌い	100.0(92)	8.7	22.8	68.5	9.8	21.7	68.5	4.3	22.8	72.8

「全くそうである」「まあそうである」は「はい」, 「どちらともいえない」は「中間」, 「全くそうではない」「あまりそうではない」は「いいえ」とした。

表8 授業の仕方に関する項目

1. 進み方が早い	21. ベルが鳴ってかなり時間がたってから教室に来る
2. 大事な所は何度も強調する	22. 私語をすると厳しく注意する
3. 黒板の字が読みやすい	23. 早口で話す
4. 説明する声が小さい	24. 生徒の理解度にあわせた授業する
5. 黒板に書く内容が整理されている	25. ベルが鳴っても延長して授業する
6. 黒板を消すのが早い	26. 黒板一杯に板書する
7. 皆の興味を引くような説明をする	27. 授業中、生徒が気軽に質問できる
8. 授業の仕方に熱意がある	28. 質問するとていねいに答えてくれる
9. 皆が分からなくても先に進む	29. 教科書の内容にそって授業を進める
10. 説明が分かりやすい	30. 成績の良い生徒を中心に授業をする
11. 説明だけであまり黒板に書かない	31. 皆がざわついている中でも平気で授業をする
12. 黒板の方を向いて話すことが多い	32. 何を学ぼうとするのかその目的をきちんと示してくれる
13. 説明しても何を言っているのかよく分からない	33. 勉強の仕方についても説明する
14. 黒板を写す時間をちゃんと取る	34. 細かい所は省略して先に進む
15. 宿題をよく出す	35. 教科書の内容をそのまま黒板に書く
16. 授業中に生徒にあてて答えさせる	36. グループ内で討論や作業をさせる
17. 授業と関係ない話をよくする	37. テストや課題には助言をつけて返す
18. 授業中に小テストをよくする	38. 授業で説明をよく間違える
19. 黒板にきれいな字で板書する	39. 身近な例をあげて説明する
20. 難しい問題で試験をする	40. 自分の作ったプリントをよく配る

やる気が起きる」という項目との関連性の程度を、前と同様にAICにより計算した。表9は、5科目をまとめて計算したときその上位10項目を示したものである。これをみると、「授業が分かりやすい」「興味を引く説明をする」が、特に強い関連性を示している。

表10は、これらの項目への回答別にやる気が起きるかどうかをみたものである。「はい」「中間」

そして「いいえ」の3カテゴリーにまとめて示した。「説明が分かりやすい」と感じる教師の授業では51.8%が、「興味を引く説明をする」と感じる教師の授業では54.7%が「やる気が起きる」としている。「やる気が起きない」とする者はいずれも極端に少ない。逆にこれらの項目を否定する場合は、「やる気は起きない」とする者が多く、「やる気が起きる」者が極めて少なくなっている。

表9 やる気を起こす授業

No	項目の内容	AIC
10.	説明が分かりやすい	-294.56
7.	皆の興味を引く説明をする	-271.00
13.	説明しても何を言っているのかよく分からない	-227.34
24.	理解度にあわせた授業をする	-175.79
28.	質問すると丁寧に答える	-154.12
27.	授業中は気軽に質問できる	-150.17
8.	授業の仕方に熱意がある	-134.75
32.	何を学ぼうとするのかその目的も示してくれる	-129.22
2.	大事な所は何度も強調する	-110.01
33.	勉強の仕方も説明する	-86.26

5. 2 やる気を起こす教師

学生にやる気を起こさせる教師とは、どのような教師なのだろうか。「その先生の授業は、どちらかというところとやる気が起きる」と回答した者は、全体では32.5%（表4）である。この項目への回答と、その教師の特徴を表すと思われる項目（表5）との関連性の程度を、同じようにAICをもとに調べた。

関連性の強い順にあげると、「11. 教え方が上手である」（AIC=-286.37）が第1位にあり、続いて教師の好き嫌いに関連する項目（表6）の上位4項目「1. 生徒の気持ちを理解する」「6. 人間として尊敬できる」「15. 生徒から慕われている」そして「7. ユーモアがある」が続いている。

表11は第3位までの項目とのクロス表である。

表11 教え方によるやる気の起こり方

		その先生の授業はどちらかというところとやる気が起きる			
項目	全体	% (数)	はい	中間	いいえ
		100.0(816)	32.5	53.8	13.7
教え方が上手である	はい	100.0(458)	49.3	45.9	4.8
	中間	100.0(235)	13.2	71.9	14.9
	いいえ	100.0(123)	6.5	48.8	44.7
生徒の気持ちを理解	はい	100.0(472)	47.5	47.2	5.3
	中間	100.0(218)	13.8	72.5	13.8
	いいえ	100.0(126)	8.7	46.0	45.2
人間として尊敬する	はい	100.0(334)	56.6	38.3	5.1
	中間	100.0(327)	18.3	71.3	10.4
	いいえ	100.0(155)	10.3	50.3	39.4

「全くそうである」「まあそうである」は「はい」、
「どちらともいえない」は「中間」、
「全くそうではない」「あまりそうではない」は「いいえ」とした。

表10 分かる授業によるやる気の起こり方

		その先生の授業はどちらかというところとやる気が起きる			
項目	全体	% (数)	はい	中間	いいえ
		100.0(816)	32.5	53.8	13.7
説明が分かりやすい	はい	100.0(434)	51.8	43.8	4.4
	中間	100.0(263)	11.0	74.5	14.4
	いいえ	100.0(119)	9.2	44.5	46.2
興味を引く説明が明だ	はい	100.0(375)	54.7	40.5	4.8
	中間	100.0(309)	17.5	71.5	11.0
	いいえ	100.0(132)	4.5	50.0	45.5

「全くそうである」「まあそうである」は「はい」、
「どちらともいえない」は「中間」、
「全くそうではない」「あまりそうではない」は「いいえ」とした。

3カテゴリーにまとめて示した。これをみると「教え方が上手である」と感じる先生の授業のときは、49.3%の者はその先生の授業は「やる気が起きる」と感じ、「やる気が起きない」者は極めて少ない。逆に「教え方が上手ではない」先生の場合は、44.7%は「やる気は起きない」としており「やる気が起きる」者が極めて少ない。「生徒の気持ちを理解する」先生の場合も、ほぼ同様の傾向がみられる。特に、その先生は「人間として尊敬できる」と感じるときは、半数以上（56.6%）が「やる気が起きる」と答えている。

5. 3 教え方の上手な教師

では、学生にとって教え方の上手な教師の授業とは、どのような教師の行うどのような授業なのか。教師の特徴（表5）や授業の仕方（表8）と、「その先生は教え方が上手である」という項目との関連性を、AICにより調べた。

表12は、その上位10項目を示したものである。「説明が分かりやすい」「授業の進め方を工夫している」「人間として尊敬できる」などが強い関連性を示している。

表13はこれらの項目とのクロス表である。「教え方が上手」な教師の授業では、79.5%がその先生の「説明は分かりやすい」と感じ、74.2%はその先生は「授業の進め方を工夫している」と感じている。逆に「教え方が上手である」と感じられない場合には、その59.3%は「説明が分かりやすい」とは感じられず、48.8%は「授業の進め方を工夫している」とも感じられない。特に、56.9%はその教師は「人間として尊敬できない」とまで回答している。

表12 教え方の上手な教師と関連する項目

No	項目の内容	AIC
8-10.	説明が分かりやすい	-599.26
5-21.	授業の進め方を工夫している	-363.07
5- 6.	人間として尊敬できる	-330.24
5-23.	知識が豊富である	-266.37
8- 7.	皆の興味を引く説明をする	-257.72
5- 1.	生徒の気持ちを理解する	-252.73
5- 2.	少し頼りない	-251.02
5-15.	生徒から慕われている	-250.36
8-13.	説明しても何を言っているのかよく分からない	-246.48
5-24.	一人一人に気をつけている	-199.01

6. 授業改善の視点

6. 1 中学校における授業

これまで、中学校において学生はどのような授業を望んでいたのか、またどのような教師が行うどのような授業のときにやる気が起きたのかなどをいろいろな角度からみてきた。

それによると、まず高専入学生に対する調査であるためか、理科や数学を好み国語を苦手とする者が多いことが分かった(表1)。成績については触れなかったが、中学3年のときのクラス内での成績を「上位」「中の上」「中の中」「中の下」「下位」の5段階で自己評価させると、主要5科目のどの科目でも約95%の者は「中の中」以上の成績であった。したがって、この調査は理数系の科目を得意とし成績もクラス平均以上の者を対象とした調査である。

学生は、中学校ではどのような科目のときにやる気が起きたのか。その科目に対するやる気は「その科目の内容に興味を持てる」ほど、また

「勉強するのが楽しい」と思える者ほど高くなっている(表3)。

では、具体的にどのような授業のときやる気が起きたのか。授業の仕方に関する40項目の中からやる気と最も関連性の高い項目をAICをもとに探すと、「説明が分かりやすい」「興味を引く説明をする」授業である(表9)。その先生の説明が分かりやすいと感じたとき、半数以上はその授業は「やる気が起きる」と答え、「やる気が起きない」者は極めて少ない(表10)。説明が分かりにくいと感じたときは、逆に「やる気が起きない」者が多く、「やる気が起きる」者が極めて少ない。

それでは、このようなやる気を起こさせる教師とはどのような教師なのだろうか。その教師の特徴を表すと思われる25項目の中からやる気と最も関連する項目を探すと、「教え方が上手である」「生徒の気持ちを理解する」「人間として尊敬できる」教師である。その教師は「教え方が上手である」あるいは「生徒の気持ちを理解する」と感じたときには、半数近くは「やる気が起きる」と答え「やる気が起きない」者は極めて少ない(表11)。特に「人間として尊敬できる」教師の授業のときは、半数以上が「やる気が起きる」と答えている。

「教え方が上手である」とは、具体的にどのようなことをいうのだろうか。この項目と強く関連する項目を探すと、「説明が分かりやすい」「授業の進め方を工夫している」「人間として尊敬できる」教師である(表12)。教え方が上手ではないと思われている教師の場合は、説明が分かりにくいばかりではなく、その半数は人間として尊敬できないとまでみられている(表13)。

また、学生が「好き」な教師とどのような教師かをみると、そのような教師は学生から慕われていて、学生の気持ちを理解し、人間としても尊

表13 「教え方が上手である」とのクロス表

		説明が分かりやすい			授業の進め方を工夫している			人間として尊敬できる			
		% (数)	はい	中間	いいえ	はい	中間	いいえ	はい	中間	いいえ
	全体	100.0(816)	53.2	32.2	14.6	52.2	34.3	13.5	40.9	40.1	19.0
教え方が上手である	はい	100.0(458)	79.5	17.5	3.1	74.2	21.0	4.8	61.1	30.1	8.7
	中間	100.0(235)	23.8	62.6	13.6	29.4	58.7	11.9	17.4	63.4	19.1
	いいえ	100.0(123)	11.4	29.3	59.3	13.8	37.4	48.8	10.6	32.5	56.9

「全くそうである」「まあそうである」は「はい」、 「どちらともいえない」は「中間」、 「全くそうではない」「あまりそうではない」は「いいえ」とした。

敬できるような教師である(表6)。そして、教師に対する好き嫌いの意識は、その教師の担当科目に対する好き嫌いや、その教師の行う授業のときのやる気にも強く関わっている(表4)。嫌いな教師の授業で「やる気が起きる」者は、4.3%にすぎない。

このようにみえてくると、中学校での授業における学生のやる気には、教師の授業の仕方や教師自身の人間性などがかなり大きなウェイトを占めているといえよう。

6. 2 高専における授業

この調査は、中学校において理数系を得意とする成績上位の者の調査であるが、高専入学生は主にそのような学生であるので、以上の結果をもとに高専における授業のあり方を考えてみたい。

学生の中学校での授業に対する意識をみると、「説明が分かりやすく、教え方の上手な先生」を求めているといえよう。これは、高専入学後でもあまり変わらないのではないと思われる。特に、説明が分かりにくいときは、やる気は起きない場合が多いことに留意する必要がある(表10)。学生のやる気を問題とする前に、まず教師自身が学生にとって分かりやすい授業であるのかどうかを反省することも必要と思われる。

「学生の気持ちを理解してくれる先生」も望まれている(表6)。学生の気持ちに立って、「学生の興味を引くような説明」にも心掛けなければならぬ。特に、その科目自体に興味を持たせるような働きかけが必要だと思われる。その科目に興味を持てる者ほどやる気が高く、その科目は「勉強しても時間の無駄だ」と思う者ほどやる気は低くなっている(表3)。

また、学生から慕われるような教師が最も好まれている(表6)。学生は「人間として尊敬できる」教師も求めており、そのような教師の授業は「やる気が起きる」とも答えている(表11)。

高専は、高等教育機関ということもあって、勉強もどちらかというと学生の自主性に任せられている部分が多いように思われる。そのような勉強態度を育成することは、研究開発部門でも活躍している高専卒業生にとって必要な要素であることはいうまでもない。

しかし高専は中学卒業生を受け入れていることを考えると、中学校からの授業の連続性も考慮しなければならないだろう。その意味で中学校の授

業を調査してみると、学生の中学校での授業に対するやる気は、教師の授業の仕方やその教師の人間性に大きく影響されていることが分かった。

学生の勉学に対する意識を高めると共に、教師自身も日々の授業に工夫を加えるなどして学生の意欲をかきたてる努力を怠ってはなるまい。そのような努力と教師自身の人間性があいまって、学生のやる気として反映されていくように思われる。

参考文献

- 1) 坂元昂他3名：学習意欲開発の方法に関する研究(2)，日本教育工学雑誌，Vol. 3，No. 2，1978
- 2) 深谷昌志・深谷和子：モノグラフ・中学生の世界，Vol. 23 (中学生のえがく教師像)，福武書店教育研究所，1986
- 3) 坂本慶行：カテゴリカルデータのモデル分析 共立出版，1985